

シュッコンカスミノウの切花形質に及ぼすかん水の影響

金子英一・*永田秀夫 (熊本県農業試験場園芸支場・*熊本県経営普及課)

Eiichi KANEKO and Hideo NAGATA : Effects of Water Control on Quality and Flowering in *Gypsophila paniculata* L.

熊本県のシュッコンカスミノウは、1987年には66haで栽培され、主要な品目となっているが、冬～春期出荷の切花は花序の間伸びや茎の軟らかさが問題になっている。そこで、切花形質に及ぼす土壌水分及びかん水の打ち切り時期の影響について検討した。

1. 材料及び方法

試験は“プリストルフェアリー”を用い、場内ビニルハウス(厚層腐植質黒ボク土)で行った。栽植密度は、畝幅80cm、株間35cmの1条植えとし、3本仕立てにした。施肥はN:3.0、P₂O₅・K₂O:1.5kg/aを行った。かん水点の影響をみるため1区10株を8月17日に定植、10日後に摘芯し、かん水点pF1.8～2.0で活着させたのち9月20日からかん水点をpF2.0及び2.5とした。かん水打ち切り時期の影響をみるため、1区5株2区制で、8月7日に定植、10日後に摘芯し、かん水点はpF2.0とし、花芽分化期(10月17日)及び発らい期(11月12日)、切花期(1月8日)からかん水を打ち切った。切花形質をみるため、切花長、切花の節数、茎径、切花重のほか節間長及び節間の曲がりの角度を、第1図に示した方法で測定した。

2. 結果及び考察

全期間かん水では、かん水点pF2.0とpF2.5では採花期、切花形質ともに差はほとんど認められなかったが、pF2.0区がやや早咲きとなり、生育が勝った(第1表)。

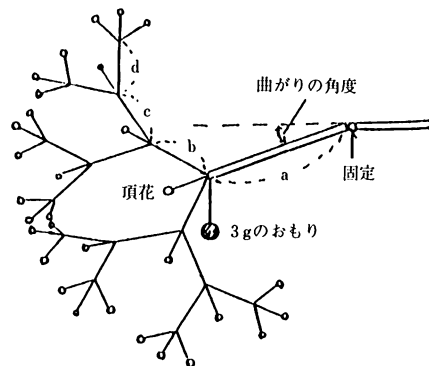
第1表 シュッコンカスミノウの開花及び切花形質に及ぼすかん水点の影響

かん水点	採花期間	平均採花日		切花長 cm	節数 節	茎径 cm	切花重 g
		月日	月日				
pF2.0	11.20～12.26	12.10		103	12.8	0.7	120
pF2.5	11.27～12.28	12.12		101	12.5	0.7	113

注) 採花日: 主茎頂花の変色時

かん水打ち切りの試験でのかん水回数は、花芽分化期、発らい期、切花期打ち切り区でそれぞれ20回、26回、36回であった。pF値はかん水打ち切りより徐々に上がり、切花時には花芽分化期、発らい期打ち切り区ともpF2.7程度となった。採花期、切花長、節数、茎径は3区ともほとんど差がなかったが、切花重は花芽分化期打ち切り区でやや軽くなった。切花期打ち切り区に対し、花芽分化期、発らい期打ち切り区では頂花の下第1節間(a)及び花序の節間(b, c, d)が短く、頂花の下第1節間の曲がりの角度も小さくなり、茎の強度が増した(第2表)。

以上の結果から、厚層腐植質黒ボク土では、生育前期のかん水点は開花のやや早いpF2.0とし、かん水を花芽分化期から発らい期の間で打ち切ると節間が短く、小花の開隔が詰まった、茎の強い切花となり、切花品質が向上すると思われる。



第1図 節間長の測定部位及び曲がりの角度の測定法

第2表 シュッコンカスミノウの開花及び切花形質に及ぼすかん水打ち切り時期の影響

かん水打ち切り時期	採花期間	平均採花日	切花長 cm	節数 節	茎径 cm	切花重 g	節間長				曲がりの角度 度
							a	b	c	d	
花芽分化期	12.17～1.23	1.7	125	15.8	0.9	202	5.2	4.0	3.2	2.6	27.5
発らい期	12.18～1.25	1.5	126	15.9	0.9	225	5.2	4.0	3.1	2.6	28.0
切花期	12.15～1.26	1.6	129	16.3	0.9	223	5.7	4.6	3.6	2.9	37.1